

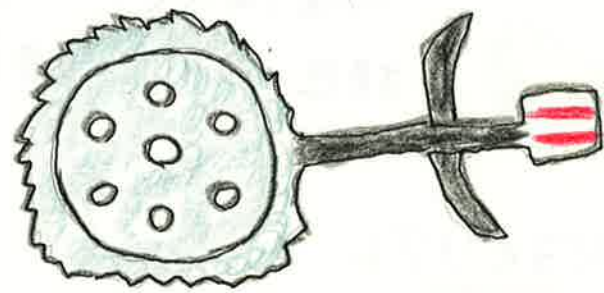
これからの予定

○7月27日(土)は、中津川地区のイベントである「SNOWエッグ」が開催されます。
豪雪地帯である中津川地区にとって、雪は厄介者であり、「その厄介者の雪を夏まで残せたらおもしろそう!」と思いつきで始めました。

現在は、雪室施設が完成して容易に雪を保存していますが、当初はぬかに銀シートを被せて必死に保存していました!

20年以上続けられていて、若者が主体で実行されます。準備に追われ不安ではありますが、楽しんでいきたいです。

○ワラビ園を中心とした草刈りで、追われることが予想されます!



あとがき

みんな元気で楽しんでますか?

協カ隊として着任して早3ヵ月。そう考えると1年なんてあっという間ですね。できることを全力で取り組まなければ! まだ先ですが、9月の中間研修でみんなと会えることを心待ちにしています。では、お元気で👏

ふるさと通信 7月号

2013年7月20日発行
第20期系録のふるさと協カ隊
阪井 達也

山形県飯豊町 中津川地区

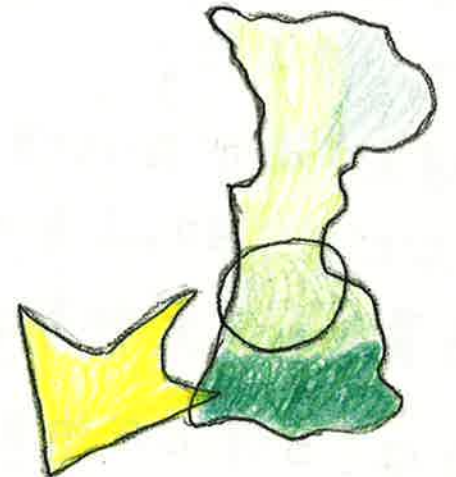
〒999-0427
山形県西置賜郡飯豊町大字上原
445-7 瑞穂寮201室

○飯豊町

人口: 7922人 (平成25年5月末現在)

面積: 329.60km² (林野面積約84%)

特産物: 飯豊米、米沢牛、どがらくアスパラガス、山菜、ヤマメ、花笠 など



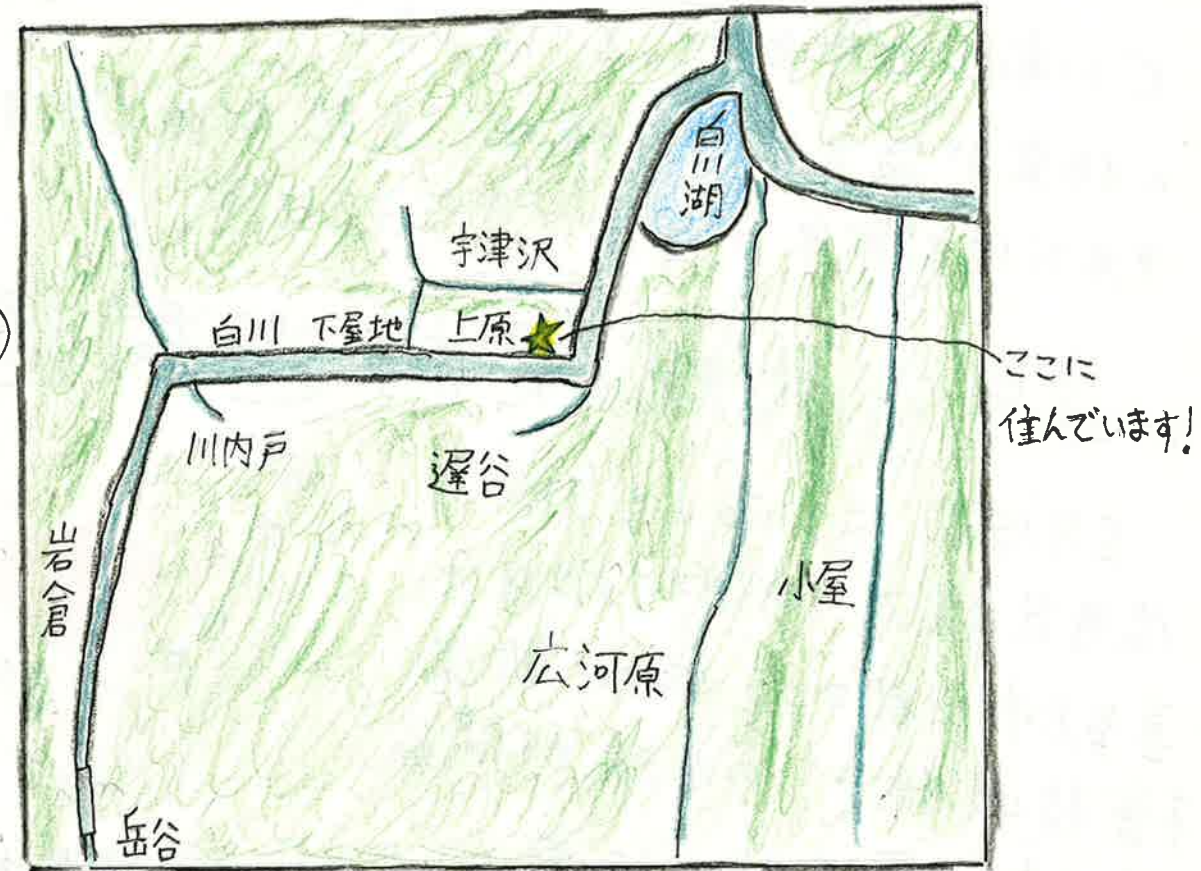
○中津川地区

人口
326人
(平成25年6月末現在)

世帯数

131
(平成25年6月末現在)

高齢化率
54.2%



10の集落があります。岳谷・広河原は、現在1軒しか住んでいません。

昔の中津川

○ 約50年程前は、今の10倍の3000人以上が住んでいて、児童数が最多で507名も居ました。(その後、ダム建設により、半減)

○ 豪雪地帯で、冬場になると農業ができないので、男性の方は出稼ぎに行っていました。

○ 田植え機がない頃は、隣町の米沢市などから田かっ人を呼んで、1ヵ月も時間を費やす一大行事でありました。

○ 現在は、5件しか牛を飼わなくなっていませんが、かつてはどの家でも牛を飼っていました。

○ 林業が盛えていた頃は、天然なめこが採れて、それだけで半年分生活できたそうです。



祝・大規模森林道開通!

6月15日に、およそ35年の歳月を経て、中津川地区と喜多方市山都町を結ぶ飯豊檜枝岐線・一本線が開通

しました。歴史的には繋がりがあられ、方言が変わらないそうです。交流人口が増えて、経済・文化の発展が期待されます。



中津川のうまい物もん

こごみ



5月に入ってから3週間は、どの家庭へ行って必ず出てきました。あく抜きをする必要がなく、どの料理にも合うので重宝されています。

あらび



今まで、ビゼンバを食べる時の黒くなったものしか見たことがありませんでした。中津川産のあらびは、おいしいと高い評価を受けています。

雪室じゃがいも



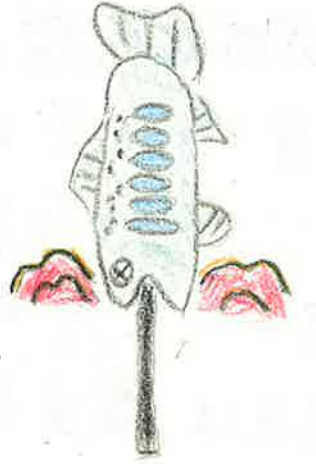
4又穫したじゃがいもを雪室貯蔵することによって糖度が5→10%の倍増えて甘い野菜になります。現在、ブランド化を目指しています。

どぶろくソフト



どぶろくの香りが入ったご当地のソフトクリームです。ノンアルコールなので酔わぬがに食べられます。

やまめ・いなな



川魚は泥臭いイメージで串焼きとして食べるものだと思いつんでいましたが、ここでは刺身でも食べます。きれいな水で育てられているので、鮮度が半端ありません。



※夏・秋に何を食べているのか楽しみです!